

# 真鶴 自治会だより

## ふれあい・思いやり・たすけあい

### まちづくりへの提言と

### 自治会の取り組み

去る5月16日(火)自治会連合会役員は、町長、助役、教育長に出席していただき、町政に関する懇談会を町民センターで開催した。

町長は常々、「良い町を作るには自治会の役目は大きい。その考えや行動を重視している」と発言しておられるので、このたびの懇談会では、自治会がまちづくりについてどのような考えで行動しているか、日ごろの思いを次の通り連合会長が総括発言を行い、町長からは自治会の提言を踏みながらも、町政全般について施政方針説明が行われた。その後、役員から補足質問、要望に対する応答があったが、紙面の都合上別の機会を通じて報告する。

#### ◇自治会の提言

真鶴町という行政区画の中で、自分たちの住む地域を、今以上に『明るくすまよい地域にする』のが私たち自治会連合会の課題であり目標である。

住民から、地域しゅりに関連して数々の要望や問題が常に提起される。私たち自治会の中で処理出来ることは自らその実現に努力をするが、行政に解決を依存することも多々である。これらの諸問題を行政と共有し、英知と汗で解決を図る行動こそが、行政と自治会の関係であり、この懇談会の願でもある。自治会は『和』を尊び、行政の意図や、コミュニケーションの合意が、水が地中深くしみこむように住民全体に浸透し、『明るく安全ですまよい地域』の実現に向かって行動することが尊重されなければならない。役員間で常に話題となる事項を提言するので、行政推進の参考に願いたい。

#### ①会員の増強

60%未満を70%強にしたい。  
未加入世帯の多いことは行政も不満と思うが、われわれも未加入住民に自治会の目的と必要性を良く説明

し納得の上、加入されるよう増強活動をする、加入者を増やす事により、いろいろな問題を捉えて共有し、素早く行政に反映させるとともに効果的に防災・防犯・福祉に役立ちたい。

#### ②連合会役員への知識向上や総体的なレベルアップに研修に実効ある研修

視察や座学研修を行い、問題解決のための知識を習得し、知恵を出し合い情熱をもって行動する資質の向上を心がける。情報の多元化迅速性に対応のためにIT化は避けて通れない。会員間の意識改革と情報ギャップの解消に努め、総体的なレベルアップを図ってゆく。

#### ③住民の安心安全のまちづくり(防災・防犯)

町全体の防災訓練を9月1日に行うだけでは非常事態に対応出来ない。自治会ごとの備が急務。昼間人口の減少、高齢者の増加など、災害発生時の対応力に不足を感じる。更に交通遮断の発生を予測すると、問題は深刻。町総合対策の中の各地区の具体策の策定整備が急務である。防犯は自治会の日常活動一部と意識し、常に行動してゆく。

#### ④観光立町へ住民の協力が欠かせない

真鶴町は、生活層や年齢層で観光に関する意識の差が大きい。この意識や価値観のギャップ克服のため、伝統行事等で、親睦を深め、恵まれた自然環境を大いに活用し、郷土意識と郷土愛を高めて、まちづくりの根幹を成す観光立町政策の強化に全住民が力を合わせ町を元気づけたい。

#### ⑤福祉サービス向上(地場産業の育成保持・医療の充実)

1. 生まれ育ち今まで町を支えてきた人々の高齢化対策  
この人たちは、自分の職業の後継者難でさびしい思いをしていないか。年々衰える健康不安を抱えて、医療体制の充実と福祉サービスの強化

がこれらの方々の願望だが、見通しは暗い。医療体制の改善整備が急務である。

社会福祉協議会だけの福祉ではなく、包括支援センターの充実に向けて知恵を出し合い、更なる充実のための投資や努力が期待される。

#### 2. 少子化への対応

小学校は昨年度から1校に統合され、中学校も1校。校舎は異なるが、実質的に小中一貫校の形が出来上がる。その中で郷土愛を含めた教育方針の確立を示して実践して欲しい。子供の声の聞こえなくなった旧町内に、若者を呼び戻すための対策が急がれる。自治会は生涯学習の実践の場として、子供たちの安全の見守り、そして地域教育の強化については協力を惜しまない。

#### ⑥まちづくりへの対応

・景観法委任条例が6月1日に発効するので条例は整ったが、真鶴岬西海岸の開発行為で、その変貌は甚だしい。一般住民の目が届かず、あまり声が上がらないが、他の市町からも指摘されているほどである。行政の対応を示してもらいたい。住民への啓蒙を行い、景観条例の精神を生かすよう協力要請をおこなって美しい町の保全に勤めて欲しい。町全体の風景や環境は町民共通の財産である。

#### ・背戸道の保全と改修

町の中は、いたるところが急傾斜地であり、そこを縫う背戸道の損傷が諸所に見受けられ、高齢者の歩行に危険を感じる。補修を要請する。

#### ・上水道行政

良い水は生活の第一条件である。観光業者の受ける影響は大きいものと思うが、英知を集め最善の経営努力を望む。

#### ・真鶴港の活性化について

目下、国や県の助成を受けての工事が進展中だが、人の集うところは魚座が主体。しかし、ここは客間で来客をもてなす場所、町民の憩う場所ではない。港湾周辺に集会所と住民の憩う場所の設営を強く望む。

・岩小跡地の活用  
子供の声が消えて1年、町の活性化の盲点的存在、視点を広く積極的に、地域住民と膝を交えて検討を行い早期の対応を要望する。

#### ・小公園の再検討

これらの小公園は、過去に法の形のみが施行され、大切な法の精神が忘れられた証である。各地域に適合した用途で有効活用できないか、近隣住民や関係団体と検討してみたい。

#### ・路上駐車について

路上駐車が後を絶たない。このことによる防犯・防災への影響は見逃せない。その実態を(住民の車か、来客の車か)調査し対策を望む。

最後に、まちづくりの最大の課題は産業の振興にあるが、今日はコミュニケーションと住民活動を主体とし、観光産業以外は割愛する。

自治会連合会会長 錦織 潔

#### 真鶴町自治会会長名簿 (平成18・19年度)

●	東自治会	会長	錦織 潔	☎68-2275
●	西自治会	会長	橋本 昭弘	☎68-2092
●	丸山自治会	会長	飯塚 潔	☎68-0778
●	城口自治会	会長	青木 美喜男	☎68-0445
●	城北自治会	会長	岩本 克美	☎68-6768
●	みさき自治会	会長	保坂 英男	☎68-2656
●	土肥道自治会	会長	丸山 友吉	☎68-0406
●	岩中央自治会	会長	朝倉 正晴	☎68-1575
●	山ゆり自治会	会長	高田 昇	☎68-5404

# 防犯パトロール隊の 結成について

私は、このたび城北自治会の会長に推挙されましたが、就任にあたって、会員の皆様に対して私がなすべき第一の課題として、『地域の安全・安心』を指す。という言わば公約を示しております。城北地区は、石材産業の工業地帯があるものの、ベッタタウンとしての住宅用地開発によって、住民増加の著しい地区であります。勤め人世代が多く、朝夕の通勤通学時間帯は歩行者も多いのですが、日中といえども人気（ひとけ）の少ない場所が点在しており、また、県道が地区を二分する形で横たわり、交通量も年を追うごとに増加している、事故が起きないことが不思議なくらいです。

不審者の出没も時折聞かれ、子ども達の安全・安心を地域住民全体の問題として取り組みたいと考え、パトロール隊を結成することとしました。活動内容は、あいさつ運動や交通指導など身近なもので、住民一人ひとりの生活の中に、ほんの少し防犯を意識した行動をしていただくことが、結果として地域全体の防犯につながれば、目標は必ず達成できると確信しております。

6月24日(土)には、地域住民を対象にした結成記念講演会を保健センターにて開催いたします。

以下、パトロール隊の活動内容の概略を示します。

## 『城北安全・安心まちづくり』 防犯パトロール隊

- 地域の安全・安心まちづくりに貢献しよう。
- 自主防犯、パトロール活動を無理なく幅広く展開しよう。
- 見えない相手に見える行動
- 不審者や、交通事故から子どもたちを守ろう

《目標》  
地域の子どもたちを守ろう  
明るくあいさつ、一声運動

### 《活動計画》

- 一、日常活動
  - ◇ 犯罪から身を守る活動「防犯グッズ」を身に付けて地域内をパトロール
  - ◇ 通学時間帯に横断歩道や通学路をパトロール
  - ◇ 子どもを送り出すとき、出迎えるとき、横断歩道を渡るとき、誰でもできる身近な防犯活動、交通指導など
  - ◇ 愛犬との散歩、外出時、ご近所の方々と井戸端会議
  - ◇ まちのそこのこで交わされる世間話
- 二、月例活動
  - ◇ 毎月一回は集合パトロール日を設定、通学路や交差点でのあいさつ運動と交通指導など
- 三、情報交換、成果報告会は四半期に一度程度開催する
- 四、夏季防犯パトロール

●その人の目が犯罪防止につながる  
無理なく誰でもできる活動、それが地域全体の意識向上につながれば城北地域全体の『安全・安心まちづくり』につながります。

私たちの運動が真鶴町全体の防犯意識向上に役立つことを期待します。

城北自治会 岩本克美



# 中山道・木曾路で受けた手作り ガイドマップと奇遇な出会い

中山道の木曾路にも、漸く春が来て、里山の雪も溶けた。休止していた中山道踏破の『旅』も、約5か月ぶりに再開することになり、4月17日から2泊3日の予定で、久しぶりに早朝の真鶴駅のホームに立てば、東の空の雲間から紅い太陽が顔を覗かせていた。電車は、予定通りに乗り継ぎ、11時半にはこの日の出発地である木曾福島駅に着いた。

駅前の観光案内所で、ポケットサイズで26枚綴りの『手作りのマップ』を頂いた。しかも、木曾路の最後の馬籠宿までの、微に入り細にわたった見事なマップで大いに助かり、地図に従い迷うことなく旅を続けることが出来た。

翌、18日の夕刻には、宿を予約せず妻籠宿入りしたものの、何処でも『すげ』なく断られ、焦りと疲れに襲われ途方に暮れたが、4軒目の『松代屋』さんに、『藁』をも掴む思いで素泊りでも良いと言ってくれて、憩願した処、疲れた旅姿の老人への情けか、引き受けてくれた。安堵の中に旅装を解き、一息入れて宿に備え付けの『落書帳』を見ると、偶然にも、北朝鮮の拉致事件に遭遇した蓮池さんのご両親の手記があった。或る日、突然最愛の息子さんが、不法な国の輩（やから）に連れ去られ、25年間も辛い、悲しい日々を送らされた我が子などを思う親の気持ちが綴られており、無事に帰国出来た事に感謝の意が述べられていた。その手記に大いに感銘し、帰宅後、蓮池さんのご両親に、お喜びと息様ご一家のご多幸をお祈りしますと、お手紙を差し上げた処、早速、丁寧なお返事を頂き恐縮した次第です。

この宿場で、3軒も断られたが、松代屋さんで救いの『神』に助けられ、投宿した部屋で、偶然にも『拉致』に関わった蓮池様ご一家と、手記を通じての『出会い』は、忘れられない奇縁の旅でした。

城北自治会 加藤 仲男

# 根本からの問い掛けを！

自治会の活動をまったく何ひとつ経験していない状態から自治会長となり、新しい分野での町との関わりの中で、今までは違った角度から町内外のことを見つめている所です。

市民運動を経験したあと議員になった時も、新しい分野での町との関わりの中で、町をとらえる視点の違いを感じたものでした。

自治会は政治的には中立で、常に行動している団体なので、まず一年は動いてみないとわからない事が多いだろうと感じながら、次から次へと届けられる会議や行事への出席通知をこなしている所です。

視点を世界に移して、自治会活動がたいへん充実している国として、イギリスを例に出すと、イギリスでは自治会が大きくなったものが自治体で、住民のボランティア活動が盛んに行われ

ており、町のことにかかわらない人は、移民が貧民といわれるとの事。

日本の場合、過去半世紀の国策として、経済大国になる事だけを目標に、行政の事は国と役場にまかせて、国民はただひたすら働いていけばよかったので、自治意識というものは置き去りにされてきた背景があります。

今、官から民へといわれる時代ですが、一部の人が動いているようでは、自治会も行政中心とならざるを得ないのです。

山ゆり自治会の責任者となって当面の抱負として、役員とも相談しながら会報やアンケート調査を実施してみたい、上からの一方通行にならないように、アンケートで自治会や地域ごとの率直な不満、意見、要望などを受け止めて対処して行きたい。

山ゆり自治会 高田 昇

## 「編集後記」

私ことになりませんが、大学卒業後転勤族として、二十数年故郷を離れておりました。家内と子供たちを鹿児島から実家に帰したのが、平成5年の7月。それから私は単身赴任となりました。平成14年4月より単身は解消し東京八重洲の本店まで通勤しております。

今年度より自治会の役員を仰せつかり、自治会連合会では広報の役員となりました。故郷を長く離れて、自治会の役員となり改めて思うことは、町にはいろいろな問題があるということです。錦織会長をはじめ先輩諸氏のご意見や思いを新鮮な気持ちで受け止めている所です。また、いろいろな問題を分かり易く会員の皆様に伝えることも、広報としての重要な役割であると思っております。時間がなくなかなか会合などに出席できない方々の為にも、広報によって、今真鶴の抱えている問題は何かを分かり易く理解して頂ける努力をしたいと思っております。今後ともご愛読を宜しくお願いいたします。

岩中央自治会 朝倉 隆

## 第17回春季町民ソフトバレーボール大会

